

# 授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	香取市立栗源小学校
-----	---------	-----	-----------

## 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和元年度の調査において、知識を活用して問題を解決することや筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明することに課題が見られた。
- 算数科に対する学習意欲が低い傾向にあり、無解答が多いことが課題である。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 実態に応じた指導方法や学習形態を工夫し、既習の知識や考え方を活用して課題解決をさせたり、筋道を立てて考えの根拠を明らかにして説明させたりすれば、自ら考え表現する力が向上するであろう。

## 3. 具体的な実践

- 第6学年「データの特ちょうを調べて判断しよう」
  - ・データの特徴について調べたい、データを活用したいという意欲がもてるように、児童に身近な算数の問題を提示した。
  - ・児童の学び合いが深まるように、話型を使い、自分の考えを根拠をもって説明したり、多様な考えを聞き考えのよさを見いだしたりできるようにした。
- 自ら考え表現する力
  - ・根拠を明らかにして筋道立てた説明や相手の意図を意識した聞き方ができるように、低中高別に目標（付けさせたい力）と話型を提示し、使えるようにした。
  - ・低学年は穴埋め、中学年はキーワードを使い、高学年は自分の言葉で学習のまとめを書けるようにした。

## 4. 成果

- 検証授業実施学年の結果について
  - ・単元の始めに「くりもと芋祭りではどの芋を選び、売るか」という目的をもたせて学習を進めたことで、見通しのある活動ができた。データの特徴を調べ、よりよいデータを選択して活用するなど、学習に意欲的に取り組むことができた。
  - ・グループで一番妥当性のある考えを発表する形態をとったことで、わかりやすい説明になるように根拠とするデータを基に考えを書いたり、代表者の発表に同じグループの児童が補足説明をしたりすることができた。根拠をもとに結論を導き出す楽しさや相手の考えのよさに気付くことができた。
- 自ら考え表現する力について
  - ・話型を用いることで、よりよい話し方や聞き方が分かり、「わかりやすい説明をしよう」「相手の考えをわかろう」とする姿が見られた。
  - ・実態に合わせ書き方を統一し、継続して取り組んだことで、自分の言葉でまとめを書ける児童が増えた。

## ◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 菅澤 純夫）

- 香取市立栗源小学校は、この2年間、全職員で全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果を分析し、課題を見付け、それを改善するために、共通理解を図りながら授業改善を推進することができた。全国学力・学習状況調査の結果を個に応じた指導へ生かすための分析方法の工夫、わかりやすい説明や相手の考えがわかるような話し合いのための話型の活用、学習意欲の向上に向けての生活場面に即した教材の開発、無回答を減らすための表現の機会の設定や学習のまとめの工夫等に取り組みながら、学力の向上や学習意欲の向上を図ることができた。